

加利州典

五

B600
S 1
7 e

1 2 3 4 5 6 7 8 9 ⁴/₁₀ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ⁴/₁₀ 1 2 3 4 5 6 7 8

大法院
消印

加利州典卷五

第四則

拘留後告罪前ノ行為

第一章

預先準備

第二章

大陪審ノ編製

第三章

大陪審ノ權力職務

第四章

述罪及ヒ述罪上ノ行為

第五則

告罪狀

第一章

告罪狀ノ決定進呈

第二章

告罪狀ノ辯論書法ニ関スル

諸規則

大法院
消印

大審院文庫	
和書門	才五百二十三號
一部	八冊
中其号	函入

B600
S1
7e

司書首

第六則 告罪後起審前ノ答辨行為

第一章 被告人ノ初問

第二章 告罪状ノ排棄

第三章 過訟

第四章 答辨

第五章 郡審院ヨリ區審院若クハ素

港刑法審院ニ告罪状ヲ遞付スル事

第六章 未夕推審セサル前ニ其訟獄

ヲ轉移スル事

第七章 推審法

第八章 小陪審ノ編制及ヒ諸結果ノ

案表

第九章 推審ノ延遲

第七則 起審後裁判前ノ行為

第一章 陪審ヲ不准スル事

加利州典卷五

第四則

拘留後告罪前ノ行為

第一章

預先準備

第八百八十八條

凡ノ區審院及ヒ郡審院ニ

推審スヘキ罪辜ハ下條ニ揭示セル者ヲ除ク

ノ外總テ告罪狀ヲ以テ之ヲ究述スルヲ要

ス

第八百八十九條

區郡府邑ノ官吏ノ罷職ヲ

申訴スル行為ハ第七百五十八條及ヒ第七百

七十二條ノ條例ニ照ラシテ負頼狀若クハ知告

状ヲ以テ之ヲ發始スルヲ得ヘシ

第八百九十條 區郡府邑ノ官吏ヲ申訴スル

負頼状及ヒ一切ノ告罪状ハ皆之ヲ郡審院ニ

呈スルヲ要ス

第二章 大陪審ノ編製

第八百九十三條 大陪審ノ編製ハ私訟法第

三則第一章ニ掲出セリ

第八百九十四條 闔州ノ人民若クハ歸罪ノ

答辨ノ為ニ留メラレタル人氏ハ皆全員ノ大

陪審若クハ其各員ヲ不准スルヲ得ヘシ

第八百九十五條 全員ノ大陪審ヲ不准スル

者ハ獨リ左ノ原因ニ據テ之ヲ行フヲ得ヘ

シ

第一 所要ノ票數ヲ其郡ノ陪審函ヨリ抽

出スルヲ欠キタル時

第二 大陪審ヲ抽出スルノ告示ヲ欠キタ

ル時

第三 其抽出ヲ應臨ノ官吏ノ面前ニ於テ

スルヲ欠キタル時

第八百九十六條

各員ノ大陪審者ヲ不准ス

ル者ハ獨リ左ノ原因ニ據テ之ヲ行フヲ得

ヘシ

第一 其大陪審者若シ未成丁タル時

第二 其大陪審者若シ外國人タル時

第三 其大陪審者若シ狂病アル時

第四 其大陪審者若シ該婦罪ノ究述者タル時

ル時

第五 其大陪審者若シ究述ノ證人ニシテ

審院ノ喚徴ヲ受ケ若クハ担保ヲ以テ拘束

セラレタル時

第六 其大陪審者若シ不害移ノ定見深信

ヲ包藏シ若クハ之ヲ発言シテ被告人ヲ以

テ其罪ヲ犯シ若クハ犯サント為シタル時

○然レモ臆揣ノ塗說及ヒ知告ニ由テ設若

的ノ意見ヲ生シ毫モ害惡ノ意ヲ含マサル

者ハ不准ノ原因ト為ルヲ得ス

第七 其大陪審者若シ自然ニ一箇ノ情欲

ヲ其事件若クハ原被ノ一方ニ包藏スル情

理アルヨリシテ不准者ノ真權ニ公平無私

ナルヲ能ハサルノ恐アツテ審院之ヲ睥信
スル時

第八百九十七條 上三條ニ記載セル不准ハ

皆口述ヲ以テ之ヲ行ラテ得ヘン既ニ此口

述アレハ之ヲ備忘録

案スルニ主典常ニ之ヲ
其阜上ニ置テ諸吏ヲ筆

記スル書
冊ノ名

ニ登記シ若クハ報官ヲシテ之ヲ書

ニ筆セシメ之ヲ其審院ニ推審スルヲ正ニ推

審陪審ノ不准ヲ該院ニ推審スル者ノ法方

ニ同シキヲ要ス

第八百九十八條 審院ハ其不准ヲ容否スル

ヲ要ス既ニ容否ノ裁判アレハ主典應サニ
之ヲ備忘録ニ登記スヘシ

第八百九十九條 審院若シ全負ノ不准ヲ許

スルハ其大陪審ヲ禁シテ不准者ノ歸罪ヲ查

問スルヲ得サレム此時其大陪審若シ命

ヲ用ヒスレテ查問ヲ行ヒ告罪狀ヲ以テ根拠

アリト決定スル片ハ審院當サニ其決定ノ損

斥ヲ命スヘシ

第九百條 各負ノ不准若シ容ルサル、片ハ

其大陪審者ハ與ツテ其不准者ノ罪否ヲ思考

商議スルヲ得ス若シ此条ヲ犯ス者ハ大陪
審ノ申訴ヲ受ケ輕侮罪ヲ以テ懲治セラル應
シ

第九百一條

凡ソ歸罪ノ答辨ノ為メニ留メ
ラレタル者ハ不准法ヲ用ユルノ外決シテ他
ノ方法ヲ以テ各種ノ苦情ヲ全員各員ノ大陪
審上ニ述ルヲ得ス

第九百二條

審院其徵喚セラレテ出局セル
衆大陪審者ノ中ニ就テ一名ノ首席者ヲ命
スルヲ要ス其首席者若シ未タ事ヲ終ヘサ

ルニ先ツテ推却放還セララルハ、
院更ニ一名ノ首席者ヲ命シテ之ニ代ラシム
應シ

第九百三條

大陪審ノ首席者ニハ應サニ左
ノ誓ヲ督課スヘシ

其誓語ニ云ク汝今大陪審ノ首席タリ本郡
ハ汝ノ宜ク合法ノ証据ヲ有スヘク若クハ
能ク之ヲ得ヘキ所タルヲ以テ汝應サニ本
郡中ニ犯了シ本郡中ニ推審スヘキ一切ノ
犯州人罪ヲ懇心のニ查問シテ正実ノ述罪

状ヲ作ルヘシ汝決シテ害意然心惡意ヲ以
テ人ヲ述罪スルコト勿レ又決シテ恐懼懇思
愛情ニ因リ若クハ各種ノ報賞及ヒ其報賞
ノ約定希望ノ為メニ人ヲ述罪ニ遺脱スル
コト勿レ只タ汝ノ一切ノ述罪ニ於テ汝必ス
汝ノ知能及ヒ悟識ヲ盡シテ心実ヲ述ヘ全
ク正實ヲ述ヘテ正実ノ外毫モ他事ヲ述ル
コト勿レ果シテ然ラハ神其レ汝ヲ佑ケン
ト

第九百四條

此誓已ニ終ルキハ直チニ左ノ

誓ヲ其他ノ在席セル大陪審者ニ督課スヘシ

其誓語ニ云ク汝等及ヒ汝等ノ各員亦應サ
ニ汝ノ首席者ノ現ニ今汝ノ面前ニ於テ自
カラ為メニ行ヒタル所ノ誓ヲ能ク正實ニ
汝ノ身ニ守ルヘシ果シテ然ラハ神其レ汝
ヲ佑ケン

第九百五條

審院已ニ大陪審ヲ編了シテ之

ニ誓ヲ督課スルキハ次應サニ其吩咐ニ及フ
ヘシ其法ハ凡ソ其職務ニ関レ及ヒ審院ニ已
報將報スル各婦罪ニ関シテ適當合法ノ知告
ヲ付與スルヲ要ス

第九百六條 大陪審茲ニ於テ一個ノ私席ニ

退キ可入案ノ犯罪ヲ查問スルヲ要ス此事

務已ニ全ク終ルキハ審院乃チ其大陪審ヲ解

還ス應レ但シ此間若シ審院ノ閉局ニ會スレ

ハ其全終ト否ヤトヲ論セス皆之ヲ解還ス

第九百七條 閉局中已ニ大陪審ヲ解還スル

後若シ事犯ノ起ルニ會ヘハ審院乃チ其意見

ヲ以テ成法官ヲシテ更ニ他ノ大陪審ヲ喚徴

セシムルノ命令ヲ登記スルヲ得ヘシ

第九百八條 其登記セル命令ハ成法官ヲ要

シテ大陪審ヲ奉職スルニ整合セル人氏十六

名ヲ其定示ノ時限ニ喚徴セシムル者ニシテ

主典乃チ其寫書ニ局印ヲ捺シ之ヲ成法官ニ

交付ス應レ

第九百九條 成法官ハ此命令ヲ施行シ其喚

徴セル人氏ノ姓名録ト俱ニ之ヲ報復スルヲ

要ス

第九百十條 定示ノ時限ニ至レハ其姓名録

ニ照シテ其人ヲ徴出シ主典乃チ徴ニ應レテ

參席セル者ノ姓名ヲ各票ニ書シ之ヲ一函ニ

投入シテ一連ノ大陪審ヲ此中ヨリ抽出スル
ヲ要ス

第三章 大陪審ノ権力職務

第九百十五條 凡ソ大陪審ハ其郡中ニ犯ス
レテ其郡ノ推審ヲ受クヘキ一切ノ犯罪ヲ查
問シ述罪状若クハ告罪状ヲ以テ之ヲ其審院
ニ告述スルヲ要ス

第九百十六條 述罪状ハ大陪審ヨリ審院ニ
呈スル無常規ノ伸文ニシテ其郡ニ推審スヘ

キ犯罪アリテ其犯者ハ其状中ニ記名セラレ
若クハ摸畫セラレタル人氏ニ係ルト信スヘ
キ合理ノ根据アルヲ告述スル者ナリ

第九百十七條 告罪状ハ大陪審ヨリ完備審
院ニ呈スル負頼状ニシテ乃チ其罪ヲ以テ某
氏ニ歸スル者ナリ

第九百十八條 大陪審ノ首席者ハ大陪審ノ
面前ニ参席スル各証人ニ誓言ヲ督課スルヲ
得ヘシ

第九百十九條 凡ソ大陪審各種ノ歸罪ヲ究

査シテ述罪状若クハ告罪状ヲ作ルニ供スル
中ハ其面前ニ参席シテ誓ヲ督課セラレタル
証人ノ証語及ヒ合法ヲ証券文書ニ据テ出呈
セル証据ヲ除クノ外若クハ第六百八十六条
ノ第三項ニ出タル証人ノ口供ヲ除クノ外總
テ他ノ証据ヲ收受スルコトヲ得ス又途説証副
助証ヲ除出シ只ク合法証及ヒ最高等ノ証ノ
ミヲ收受ス應シ

第九百二十條 大陪審ハ被告黨ノ証据ヲ聽

クコトヲ要セス只ク其面前ニ出呈セル一切ノ

証据ヲ秤量スルヲ以テ其當務トス然レモ力
及的ノ中能ク其端罪ヲ解結スヘキ他証アリ
ト信スルキハ令シテ其証据ヲ出呈セシムル
コト有リ此時ニハ區代言官ヲ要シテ証人喚徴
状ヲ發セシムルコトヲ得ヘシ

第九百二十一條 大陪審若シ其面前ニ出呈

セル一切ノ証据ヲ通考スルニ解結スル所ナ
ク又抵悟スル所ナクシテ小陪審ノ判決ヲ保
スルニ足ルト看取スルキハ應サニ告罪状ヲ
決是ス又決スヘシ

第九百二十二條

大陪審中若シ其郡ニ推審

スヘキ罪事ヲ犯シタル者アルヲ知リ若クハ
犯シタリト信スヘキ原由ヲ得ル者ハ必ス之
ヲ其同僚ニ説示シ共ニ其犯罪ヲ究査スル
ヲ要ス

第九百二十三條

凡ソ大陪審ハ歸罪ノ為メ

ニ告罪ヲ待タスシテ其郡ニ禁固セラレタル
各人ノ件案ヲ究査シ其郡中ニ建設セル獄舎
ノ景况辨理ヲ究査シ又郡中各官吏ノ其職掌
ヲ奉スルニ有意貧墨ノ失行アルヲ究査スル

ヲ要ス

第九百二十四條

凡ソ大陪審ハ又何ノ時節

ヲ論セス自由ニ獄舎ニ入視シ且ツ價錢ヲ出
サスシテ郡中一切ノ公簿ヲ檢査スルノ權アリ

第九百二十五條

大陪審ハ何ノ時節ヲ論セ

ス審院若クハ其一員ノ審官若クハ區代言官
ノ指開ヲ請フヲ得ヘシ然レモ其審院ノ審
官ハ此指開ヲ請ハレタルニ非レハ大陪審ノ
會席ニ參スルヲ准ルサス只タ其郡ノ區代

言官ハ大陪審ニ知告ヲ付與シ若クハ其入案
スヘキ各事件ノ指開ヲ付與スル為メニ常ニ
其席ニ至ルヲ得又已レ若クハ大陪審ノ意
見アルニ會ヘハ大陪審ノ席ニ出頭セル証人
ヲ詰問スルヲ得ヘシ然レモ其他ノ人員ハ
現ニ詰究セラル、証人ヲ除クノ外一切ニ大
陪審ノ會席ニ出ルヲ准ルサス殊ニ其意見
ヲ發說シ若クハ投票ヲ行フニ當テハ區代言
官ト雖モ其席ニ在ルヲ准ルサス

第九百二十六條 大陪審ノ各員ハ其究査セ

ル事件ニ就テ已レ若クハ其同僚ノ發說セル
所若クハ其投票セル方法ヲ隱秘シテ他ニ泄
ラサ、ルヲ要ス然レモ審院若シ其証人ノ現
ニ今証庭ニ證言スル所ヲ以テ其嘗テ大陪審
ノ面前ニ証告セル所ニ比較シテ其同異ヲ微
見セント欲スル片ハ大陪審ヲ要シテ之ヲ漏
泄セシムルヲ得若クハ大陪審ノ面前ニ証
告セル者若シ其後偽誓ヲ歸罪ヲ受ケ若クハ
其歸罪ヲ推審スル片モ亦大陪審ヲ要シテ其
證言ヲ漏泄セシムルヲ得ヘシ

第九百二十七條 大陪審ハ其合法ニ究査ス

ル未決事件ニ就テ何様ノ説ヲ發シ若クハ何

種ノ票ヲ投スルモ一切ニ其求問ヲ受ルコトナ

シ但シ其商議中ニ一個ノ負頼若クハ^ト証

据^語テ共同僚ニ告示シテ偽誓ノ罪ヲ犯スコトア

ル者ハ此限ニ在ラス

第四章 述罪及ヒ述罪上ノ行為

第九百三十一條 凡ソ述罪状ハ十二名以上

ノ大陪審者ノ同意アルニ非レハ之ヲ決是ス

ルコトヲ得ス已ニ之ヲ決定スルキハ其首席者
ノ署名アラシムコトヲ要ス

第九百三十二條 述罪状已ニ成ルキハ大陪

審ノ首席者盡ク其同僚ヲ率ヒテ往テ之ヲ審

院ニ進呈シ主典ニ交付シテ之ヲ貯藏セシム應シ

第九百三十三條 其述罪状ニ記載セル事實

若シ其郡ニ推審スヘキ罪辜タルキハ審院乃

チ其主典ニ指令シテ被告人ヲ拿捕スル審院

保状^{案スルニ}述罪状若クハ輕侮罪ノ為メニ發シ發セ

シム

第九百三十四條 主典已ニ此命令ヲ受ルノ

後ハ其審院ノ開閉ニ係ラス審官若クハ區代

言官ノ請求アルニ應シテ即チ其署名及ヒ院

印アル審院保狀ヲ一郡若クハ連郡ニ發スル

コトヲ得ヘシ

第九百三十五條 述罪狀ニ因テ發スル審院

保狀ハ概子左ノ書法ヲ用ルコトヲ要ス

某郡

加利州ノ人民ヨリ本州ノ成法官成法吏

成法卒若クハ邏卒ニ

千八百幾十年某月某日ニ述罪狀ヲ作テ某

ノ罪辜茲ニ其罪狀ヲ以テ乙某ヲ某郡ノ郡

審院ニ負頼スル者アリ故ニ今汝ニ令スラ

ク汝登時ニ上名ノ乙某ヲ拿捕シテ之ヲ該

郡ノ審官丙某ノ面前ニ解送シ若シ其不在

ニ會シ若クハ事故アツテ公務ヲ理スルコト

能ハサルニ會ハ、之ヲ該郡中至近至便ノ

審官ノ面前ニ解送セヨ

紀元千八百幾十年某月某日我手筆ヲ用ヒ

之ニ上名ノ審院ノ印ヲ捺シテ是狀作ル該

院ノ命令ニ因テ院印

主典丁某

第九百三十六條 審院保状ハ何ノ郡ヲ擇マ

ス之ヲ行フヲ得ヘシ然シテ之ヲ連達行スル官

吏ハ應サニ知告ノ為ニ審院保状發セル拿捕保状ヲ

行ス者ノ如クスヘシ但シ連達之ヲ他郡ニ行ス者

ハ必シモ其郡ノ審官背簽ヲ請フテ之ヲ背簽セシ

タルヲ要セス

第九百三十七條 被告人已ニ解送セラレテ

審院ニ至ル片ハ審官乃チ知告ニ因テ發セル

拿捕保状上ノ行為ニ照シテ其述罪状ニ記載

セル婦罪ノ行為ニ從事スルヲ要ス

第五則 告罪状

第一章 告罪状ノ決定進呈

第九百四十條 凡ソ告罪状ハ十二名以上ノ

大陪審者ノ同意アルニ非レハ之ヲ決是スル

ヲ得ス已ニ之ヲ決是スル片ハ一個正実告

状ノ六字ヲ背簽シテ大陪審ノ首席者之ニ署

各スルヲ要ス

第九百四十一條

告罪状

凡ソ告罪状トハ答辨ノ為メニ留メテ

レタル被告入ヲ決是スル時十二名以上ノ

大陪審者若シ異議アルキハ大陪審乃チ初メ

審院ヨリ逋付セラレタル口供及ヒ伸文ハ伸文

無一定ニ其婦罪ヲ唔用スルヲ背簽シテ之

セスシ其審院ニ還納ス應シ

第九百四十二條

婦罪ノ唔用ハ審院ノ指令

ニ因テ再三之ヲ大陪審ニ覆付スルヲ妨ケ

ス然レモ此指令アルニ非レハ覆復セララル

トナシ

第九百四十三條

告罪状若シ決是セラル

片ハ未タ之ヲ審院ニ進呈セサルニ先ツテ各

証人^{是レ大陪審ノ面前ニ詰究セラレ若クハ}

其口供ヲ作リタル者ヲ總稱スルナリノ姓名ヲ其告罪状ノ下端若クハ背面ニ記載

ス應シ

第九百四十四條

告罪状已ニ決是セララル

片ハ大陪審ノ首席者盡ク其同僚ヲ率ヒテ往

テ之ヲ審院ニ進呈シ爾後主典ニ交付シテ貯

藏セシム

第九百四十五條

告罪状ヲ決是スルニ當テ

被告人若シ獄舎ニ在ラサルキハ其行為第九

百七十九條以下第九百八十四條ニ至ルマテ

ノ法解倒案ニ參席セサル被告ヲ用ニ應シ

第二章

告罪状ノ辨論書法ニ關スル

諸規則

第九百四十八條

凡ソ一切ノ辨論法及ヒ其

辨論ノ充足ヲ決定スル一切ノ規則ハ總テ此

典ニ揭示セル者ノ如シ

第九百四十九條

最初ノ辨論ハ人民黨ニ在

テ乃チ告罪状トス

第九百五十條

告罪状ニハ左ノ各件ヲ記載

セサルヘカラス

第一 其公訟ノ標題○其告罪状ヲ進呈セ

ラル、審院及ヒ西黨ノ名ヲ併記ス

第二 其事犯ノ記述○通常ノ人氏モ能ク

其意ヲ解スヘキ普通簡明ノ文ヲ以テ之ヲ

記ス

第九百五十一條

其書法概子左ノ如シ

加利州ノ人民ヨリ甲某ニ對シ紀元千八百
幾十年某ノ開局ニ於テ某郡ノ郡審院ニ甲
某郡ノ大陪審ノ此告罪狀ニ因テ左ニ犯
セル某ノ罪辜茲ニ謀殺放火等ノ合律罪名ヲ書シ若クハ大罪小罪ヲ以テ之ヲ以テ負頼セラル右某甲紀元千八百幾十幾年某月某日某郡ニ於テ云々
其婦ニ
罪セラレタル行事
不行事ヲ陳説ス

第九百五十二條 告罪狀ハ左ノ各件ニ於テ
直遂的実ナランコトヲ要ス

第一 其歸罪セラレタル黨

第二 其歸罪セラレタル事犯

第三 其事犯ノ詳細ナル景況○是レ充全
ノ事犯タルコトヲ詳明スルニ緊要ナル事
事ナリ

第九百五十三條 被告人若シ假設舛錯ノ姓

名ヲ以テ告罪セラレタル後行為ノ各時點ニ
於テ其真名ヲ識得スル片ハ爾後ノ行為ニ於
テハ必ス其真名ニ從ヒ初メ其告罪狀ニ記ス
ル所ノ姓名ハ其真ニ非ルコトヲ添記ス應シ

第九百五十四條 告罪狀ハ只々一犯罪ヲ負

頼シテ頭尾一意ノ書法ヲ用ルヲ要ス但シ
其事犯若シ數種ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ行フヘ
キ者ニ係ルハ案スルニ其死命傷未タ刀ニ由
ラ知ルヘカ類其告罪状ニ其方法ヲ順次ニ陳述
スルヲ得ヘシ

第九百五十五條 犯罪ノ時刻ハ必シモ緊合

的ニ之ヲ記載スルヲ要セス只タ其告罪状
ノ決是前ニ係リタルヲ証告スル片ハ即チ
可ナリ但シ其時刻若シ其事犯ノ緊要ナル一
成分ニ係ル者ハ此限ニ在ラス

第九百五十六條 其犯罪若シ私害若クハ私

害ノ試犯ヲ含有セル片其告罪状ニ若シ充分
ノ的實ヲ以テ其犯ノ本件ヲ陳述スル片ハ其
私害ヲ受ケ若クハ其試犯ニ遭ヒタル人氏ノ
事ニ係リテハ謬誤ノ陳述アリ以テ其状ノ
累トスルニ足ラス
案スルニ刑法ニハ償金ヲ
論セス故ニ私害ノ支ニ精
ナラサル
ヲ答メス

第九百五十七條 告罪状ノ辞ハ皆通語中ノ

通義ニ從テ之ヲ用ユ但シ律家ノ慣用スル文
字熟語ノ如キニ至テハ律家ノ意義ニ從テ之

ヲ用ユヘシ

第九百五十八條 布告律ニ用ヒタル某ノ犯

罪ノ文字ハ告罪狀ニ於テ必シモ嚴密ニ之ヲ

遵用スルヲ要セス只々同意ノ別語ヲ使用

シテ妨ケナシトス

第九百五十九條 凡ソ告罪狀ハ讀者ヲシテ

左ノ各件ヲ領得セシムヘキ者ニシテ充全ナ

リトス

第一 審院ノ名ヲ記載セスト雖モ其告罪

ヲ受クヘキ審院ニ進呈スルニ足ル者

第二 其審院ノ現在セル郡ノ大陪審ニ決

是セラレタル者

第三 其被告人ヲ記名シタル者○若シ其

名ヲ聞知スルヲ能ハサル片ハ其相貌ヲ摸

畫シテ之ニ假設ノ姓名ヲ附シ其真名ヲ知

ラサルヲ添記シタル者

第四 其犯罪ハ現ニ其審院ノ管理中ニ在

リタルヲ記載セル者○其管理外ニ在ル

モ其審院ニ於テ之ヲ推審スヘキ犯罪ニ係

ル者ハ此書法ニ拘セス

第五 其犯罪ハ現ニ其告罪状ヲ決是セル時點ノ前ニ在リタルヲ記載セル者

第六 其歸罪セラレタル行事及ヒ不行事ハ皆通常簡易ノ辞ヲ以テ分明ニ之ヲ陳說シ勗テ重複ヲ避ケ常人ト雖モ一見シテ其意旨ヲ領解スルヲ得ヘキ者

第七 其歸罪セラレタル行事及ヒ不行事ハ皆的實ニ之ヲ記載シテ其罪ノ輕重ヲ明了ニシ審院ヲシテ能ク決罪ノ裁判ヲ宣令セシムヘキ者

第九百六十條 凡ソ告罪状ハ縱ヒ其書法ニ虧缺不充全ノ處アリトモ苟モ被告者ノ本權ヲ妨碍セサルモ其状ヲ以テ不充分ナル者トセス又其審判行為ヲ妨クル者トセス

第九百六十一條 法律ノ臆揣及ヒ審院ノ已ニ許是セル事件ハ之ヲ告罪状ニ記載スルヲ要セス

第九百六十二條 凡ソ曾テ審院若クハ其他ノ審判権アル官吏ノ裁判若クハ決定若クハ行為ヲ受ケタルヲ援ヒテ這般ノ辯論ニ供

スル片ハ只々其裁判決定ヲ受ケ若クハ行為
ヲ得タルヲ記載シテ必スシモ其事由ヲ陳
説スルヲ要セス然レモ推審ノ時ニ至テハ
詳カニ其事由ヲ証告セサルヲ得ス

第九百六十三條

私事ニ關スル布告律若ク
ハ其布告律ヨリ發スル權利ヲ以テ其辨解ニ
供スル者ハ只々其布告律ノ標題ト其布告シ
タル日子トヲ援引スル片ハ足レリトス此時
ニハ審院必ラス之ヲ許是セサルヲ得ス

第九百六十四條

誹謗罪ノ告狀ハ必シモ其

誹謗事件ノ果シテ其人ニ適用セラレタル
ヲ示サシカ為メニ不緊要ノ事實ヲ陳説スル
トヲ要セス只々其被告人曾テ某氏ニ關スル
誹謗ヲ頒行シタルトヲ汎言スル片ハ足レリ
トス然レモ推審ノ時ニ至テハ詳カニ其頒行
シタル事實ヲ証告セサルヲ得ス

第九百六十五條

偽作罪ノ告狀ニ緊要件タ

ル偽作器械已ニ被告者ノ所為技倆ニ因テ破
壞隱匿セラレタルモ其告罪狀ニ其破壞隱匿
ノ事實ヲ具陳シ推審ニ因テ受用セララル、片

ハ縦ヒ其器械ノ摸畫ニ謬誤アルモ以テ妨ケ
トスルニ足ラス

第九百六十六條

偽誓罪若クハ助偽誓罪ノ

告状ニハ其偽誓ノ起リタル時ノ訟獄事件ヲ
述ヘ及ヒ其偽誓ハ某ノ審院ニ於テ某ノ官吏
ノ面前ニ之ヲ犯シタルト及ヒ其審院若クハ
其官吏ハ實ニ誓ヲ督課スルノ權アリタルト
ラ陳說シ併テ適當ノ証說ヲ以テ其誓述セル
事件ノ詐偽タルトヲ辨スルキハ十分ナタリ
トス故ニ必シモ其偽誓時ノ辨解登記行為ヲ

陳スルトヲ要セス亦タ其審院官吏ノ官權ヲ
說クトヲ要セス

第九百六十七條

錢幣銀鋪幣股分券若クハ

値價アル抵當物ヲ偷盜竊用セル罪ノ告状ハ
其金貨ノ何種タリ其幣券ノ何番号何名目タ
リ若クハ其抵當物ノ何品件タルトヲ列記ス
ルトヲ要セス只タ其錢幣銀鋪幣股分券若ク
ハ値價アル抵當物ノ偷盜竊用タルトヲ証告
スルキハ十分ナリトス

第九百六十八條

各種ノ淫佚猥褻ナル冊子

小本圖画印刷牌子文書ヲ展觀發行通過販賣
括賣シ若クハ這樣ノ企欲ヲ以テ之ヲ貯有ス
ル罪ノ告狀ハ必シモ其文語若クハ圖画幾分
ヲ記載スルヲ要セス只々其冊子文書等ノ
淫佚猥褻ナル亵實ヲ汎記スルハ十分ナリ
トス

第九百六十九條

二人以上ノ被告者アル告

罪狀ニ於テハ其中ノ一人以上或ハ決罪セラ
レ或ハ放還セララル、テヲ得ヘシ案スルニ護
之ヲ審判シ必シモ盡ク被告者ヲ聚
メテ一時ニ之ヲ行ハサルヲ言フナリ

第九百七十條

大罪ノ件案ニ於テ亵前從ト

首トヲ區別シ及ヒ第一等首ト第二等首トヲ
區別スルヲハ茲ニ之ヲ廢ス故ニ大罪ノ事犯
ニ關セル人氏ハ其親カラ之ヲ行ヒ若クハ其
場ニ在ラスレテ之ヲ援助鼓舞スル者ヲ分タ
ス総テ首者ヲ以テ之ヲ告罪推審処刑スルヲ
要ス

第九百七十一條

大罪ノ從ハ其首ノ告罪推

審ニ先ツテ之ヲ告罪推審処刑スルヲ得ヘ
シ

第六則

告罪後起審前ノ答辨行為

第一章

被告人ノ初問

第九百七十六條

告罪狀已ニ呈納セララル、

片ハ其審院乃チ其被告人ヲ初問スルヲ要ス然レモ其件案若シ其審院ニ推審スヘキ者ニ非サル片ハ其告罪狀ヲ逋付セラレタル審院ニ於テ之ヲ初問スヘシ

第九百七十七條

其告罪狀若シ大罪ヲ告ル

者ニ係ル片ハ被告人必ス親カラ出頭セサルヲ得ス然レモ若シ小罪ニ係ル片ハ代言者ヲシテ初問ノ席ニ代參セシムルヲ得ヘシ

第九百七十八條

被告者ノ出頭ヲ要スル片

其人若シ獄舎ニ留セラレタル片ハ審院乃チ守獄吏ニ指令シテ之ヲ初問ノ席ニ解送セシムルヲアリ此時ニハ守獄吏必ス其命令ニ應シテ之ヲ出頭セシメサルヲ得ス

第九百七十九條

被告人若シ保憑狀ヲ納レ

若クハ錢幣ヲ按當シテ放還セラレタル後其

要セラレタル初問席ニ出頭セサルハ審院
盡ク其保憑按當ノ金額ヲ没收シ仍ホ主典ニ
指令シテ其被告人ヲ拿捕スル審院保状ヲ發
セシムルヲ得ヘシ案スルニ審院保状
ノ名ハ前出セリ

第九百八十條

主典己ニ此指令ヲ受ケタル

後ハ其審院ノ開閉ニ拘_ハス區代言官ノ請求

アルニ應シテ即ケ審院保状ヲ一郡若クハ連

郡ニ發スルヲ得ヘシ

第九百八十一條

告罪後ノ審院保状若シ大

罪ニ係ルハ概子左ノ式ヲ用ルヲ要ス

某郡

加利州ノ人民ヨリ同州中ノ成法官成法

吏成法平若クハ邏卒ニ

某ノ罪辜

茲ニ其罪状ヲ概言ス

ヲ以テ乙某ヲ負頼ス

ル告罪状ハ紀元千八百幾年某月某日某郡

ノ郡審院ニ於テ決是セラレタリ故ニ令汝

ニ令スラク汝登時ニ上名ノ乙某ヲ拿捕シ

之ヲ該審院

其告罪状若シ他ノ審院ニ送付セラレタルハ茲ニ其審院ノ

名ヲ解送シテ其告罪ニ答ヘシメ若シ該

院ノ閉局時ニ會ハ、汝乃ケ之ヲ該郡ノ成

法官ノ獄舎ニ交付セヨ

紀元千八百幾年某月某日我手筆ヲ用ヒ之ニ上名ノ審院ノ印ヲ捺シテ之ヲ作ル該院ノ命令ニ因テ〔院印〕

主典丙某

第九百八十二條

此状ヲ以テ拿捕セラレタル被告者ノ罪若シ保憑ヲ准ルスヘカラサル者ニ係ルキハ解禁状ノ為メニ之ヲ詰究シテ遂ニ其保憑ヲ准ルス者ノ外総テ其告罪状ヲ決是セル郡ノ成法官ヲシテ之ヲ其獄舎ニ留

メシムルヲ要ス然レモ其犯罪若シ保憑スヘキ者ニ係ルキハ保状令語ノ末ニ左ノ語ヲ添記スルヲ要ス

其語ニ云ク然レモ被告者若シ保憑ヲ納レシメヨ
ンヲ要セハ汝乃テ之ヲ其郡中若クハ其拿捕シタル郡中ノ審官ニ解送シテ之ヲシテ其告罪ニ答フルノ保憑ヲ納ル、
トヲ得セシメヨ

此時ニハ其保状ヲ發シタル審院當サニ其保憑ノ金額ヲ預定シ主典ヲシテ左ノ語ヲ背簽

シテ之ニ署名セシムヘシ

其語ニ云ク此被告人ハ幾元ノ額ヲ以テ保
憑スルヲ准ルサル應シ

第九百八十三條 審院保状ヲ各郡ニ逋達ス

ルノ方法ハ拿捕保状ニ同シ但シ甲郡ヨリ轉
シテ乙郡ニ往ク甲郡ノ審官ノ背簽ヲ要
ス

第九百八十四條 被告人ヲシテ保憑状ヲ納
レシメンカ為メニ之ヲ他郡ノ審官ニ解送ス
ル者アルキハ其審官應サニ拿捕保状ヲ以テ

解送セラレタル者ヲ処スルノ法ニ照シテ之
ヲ行為スヘシ

第九百八十五條 其告罪状素ト大罪ニ係ル
者ニシテ被告人若シ己ニ答辯ノ為メニ出頭
センコトヲ保憑シタルキハ其告罪状ヲ領受セ
ル審院乃チ其保憑ノ金額ヲ増益シテ之ヲ其
保状ニ記載シ被告人若シ此額ヲ保憑セスン
ハ必ス之ヲ獄舎ニ留メテ放還スルコト勿レト
令スルコトヲ得ヘシ

第九百八十六條 此命令ヲナスキ被告人若

シ現在スル片ハ直チニ之ヲ拘留シ若シ現在セサル片ハ審院保状ヲ發シ此章ニ揭示セル方法ヲ以テ之ヲ行為スヘシ

第九百八十七條

初問ニ出頭シタル被告人若シ代言者ヲ用ヒサル片ハ審院應サニ之ニ告知スルニ初問ニモ都テ代言者ヲ用ルノ權利アルヲ以テシ且ツ其代言者ノ幫助ヲ希フヤ否ヤヲ問フヘシ被告人若シ之ヲ希フモ能ク之ヲ用ルノ資力ナシト答ル片ハ審院應サニ為メニ代言者ヲ撰命シテ之ヲ保護セシムヘシ

第九百八十八條

凡ソ初問ハ審院之ヲ行ヒ若クハ審院ノ指令ニ因テ主典若クハ區代言官之ヲ行フ應シ其法先ツ告罪状ヲ被告人ニ讀聽シテ之ヲ其寫書及ヒ背簽ノ寫書ト証入ノ名簿トヲ交付シ次ニ其告罪状ニ向テ有罪ト答辨スルヤ若クハ無罪ト答辨スルヤヲ問フナリ

第九百八十九條

初問ノ席ニ於テ審官應サニ先ツ被告人ニ告テ云フヘシ告罪状ニ稱ス

ル所ノ姓名若シ実ヲ失ハ、汝宜ク其実名ヲ告クヘシ然ラスニハ其状中ノ名ヲ以テ始終之ヲ行為セント此時被告人若シ他ノ名ヲ告ケサルハ便チ其名ニ因テ之ヲ行為スルヲ得ヘシ然レモ若シ他ノ名ヲ告ルハ審院乃チ命シテ之ヲ初問ノ備忘録ニ登記シ爾後其名ヲ以テ告罪状上ノ行為ニ從事シ毎ニ其状中ノ名ヲ併称ス應シ

第九百九十條

被告人若シ初問ニ於テ其告罪ニ措答スルノ期限ヲ延遲センコトヲ請求セ

ハ審院應サニ之ニ一日以上ノ適宜時間ヲ准ルスヘシ凡ソ初問ノ措答ニハ其告罪状ヲ排棄センコトヲ口請シ若クハ之ヲ過訟シ若クハ之ニ答辯スルコトヲ得ヘシ

第二章

告罪状ノ排棄

第九百九十五條

其告罪状若シ左ノ各件ニ

觸レテ被告人ノ口請アルニ會ヘハ其被告人

ヲ初問シタル審院當サニ之ヲ排棄スヘシ

第一 其告罪状ヲ決是背贅進呈スルコト此

典ノ揭示セル所ニ違ヘル者

第二 大陪審ノ面前ニ詰究セラレ若クハ口供ヲ呈シテ出頭ニ代ヘタル証人ノ姓名ヲ其告罪状ノ下端若クハ裏面ニ記入背簽セサル者

第三 大陪審ノ會合セル席及ヒ其告罪状中ニ記載セル婦罪ヲ考案商議スル席ニ他人ヲ准ルシテ參至セシメタル者○但シ第九百二十五條ニ揭示セル人負ハ此限ニ在ラス

第四 告罪状ヲ決是セル前ニ其被告又ヲ留メス是レ措答ノ為メニ留ムヘク此ノ如クニシテ被告人ニ全負若クハ各負ノ陪審者ヲ不准スヘキ好根据ヲ付シタル者

第九百九十六條 被告人若シ初問ノ席ニ於テ上條ノ批摘ヲ行ハサルハ爾後之ヲ以テ其告罪状ヲ排棄スルノ口請ヲ行フヲ得ス

第九百九十七條 此口請ハ審院若シ事故アルカ為メニ其聽審ヲ延遲スルニ非ルハ應サニ登時ニ之ヲ聽クヘシ聽審ノ後其口請若

シ不肯セララル、ハ被告人直キニ過訟若ク
 ハ答辨ヲ以テ其告罪ニ措答セサルコトヲ得ス
 然レモ審院若シ其口請ヲ准許スルハ應サ
 ニ令シテ其被告人ヲ解禁シ是レ其被告人拘
留セラレタル時
 ノ事若クハ其保憑ヲ消去シ是レ保憑状若ク
ナリ
 ハ其按當金ヲ還付スヘシ是レ保憑状ヲ納レ
スシテ按當金ヲ納
 時ノ事但シ審院其件案ヲ以テ再ヒ之ヲ其大
 陪審若クハ他ノ大陪審ニ覆付スル者ハ此限
 ニ在ラス

第九百九十八條 審院命シテ其件案ヲ大陪

審ニ覆付スルハ被告人若シ已ニ獄舎ニ留メ
 ラレテ今亦保憑ヲ准ルサレサル者ハ應サニ
 初メニ依テ獄舎ニ留マルヘシ又若シ已ニ保
 憑ヲ准ルサレ若クハ按當金ヲ納レタルハ
 其已納ヲ保憑按當亦以テ這般ノ新告罪状ニ
 参答スルノ約束ニ當ツヘシ此ノ如ニシテ新
 告罪状モ亦決是セラレサルハ審院應サ
 ニ其大陪審ヲ解放スルニ當ツテ又應サニ上
 條ニ揭示セル命令ヲ發スヘシ

第九百九十九條 此章ニ揭示セル排棄告罪

状ノ命令ハ後日ノ同一宛述ヲ過住スルコトナ
シ

第三章 過訟

第一千二條 被告人ノ措答ハ只ク過訟ト答
辨トアルノミナリ

第一千三條 過訟答辨ハ皆應サニ公聽ノ審
院ニ於テ初問ノ席若クハ其他准許セラレタ
ル適宜ノ時點ニ之ヲ行フヘシ

第一千四條 告罪状ヲ過住スル者ハ左ノ各

件ヲ其中ニ看出スル片之ヲ行フコト得ヘシ

第一 其告罪状ヲ決是シタル大陪審元ト
其郡ニ於テ合法ニ管理スヘキ歸罪ニ非ル
者ヲ究査シタルヲ以テ其權ナキ者トスル
時

第二 其告罪状ノ要式若シ第九百五十條
第九百五十一條第九百五十二條ノ所須ニ
合サル時

第三 其告罪状若シ二罪以上ノ負頼ヲ含
有スル時

第四 其告罪状ニ陳述セル事實若シ罪辜ト称道スヘカラサル時

第五 其告罪状ニ含有セル某事件若シ正実ナルキハ其負頼セル罪辜ヲ以テ當義トナシ若クハ宥恕スヘキ者トナシ或ハ合法ニ其究述ヲ過住スヘキ者トナス時

第一千五條 凡ソ過訟ハ之ヲ書ニ筆シ被告人若クハ其代言者之ニ署名シテ之ヲ審院ニ納ル、₁ヲ要ス其文辞ハ應サニ分明ニ其告罪状ヲ批摘スルノ根据ヲ條列スヘシ然ラサ

レハ必ス應サニ審院ノ唔顧ニ遭フヘシ

第一千六條 過訟書已ニ納ルキハ審院應サニ直チニ其辨論ヲ聽キ或ハ別ニ時限ヲ定メテ之ヲ聽クヘシ

第一千七條 審院是ニ於テ其過訟ヲ商量シテ許否ノ裁判ヲ與ル₁ヲ要ス其命令ハ應サニ之ヲ備忘録ニ登記スヘシ

第一千八條 審院若シ其過訟ヲ准ルス₁ヲ裁判スルキハ其裁判ハ即チ其告罪状ノ終決裁判ニシテ能ク永ク同一犯ノ究述ヲ過住ス

ヘキ者トス但シ審院若シ其過訟書ノ批摘スル所ヲ以テ違避スヘシト看取シ是ニ於テ其件案ヲ其大陪審若クハ他ノ大陪審ニ覆付スルキハ此限ニ在ラス

第一千九條

審院若シ其件案ノ覆付ヲ指令

セサルキハ應サニ直チニ其被告人ヲ放還シ是レ被告人拘留セ若クハ其保憑ヲ消去シ是ラレタル時ノ事保憑ヲ納レ若クハ其按當金ヲ還付スヘシ是按當金ヲ納レタル時ノ事

第一千十條

審院若シ其件案ノ覆付ヲ指令

スルキハ其行為正サニ第九百九十七條及ヒ

第九百九十八條ニ揭示セル者ニ同シ

第一千十一條

審院若シ其過訟ヲ准ルサ、

ルキハ應サニ被告人ヲ准ルシテ其擇フ所ニ從テ答辨ヲサシムヘシ此答辨ハ登時之ヲナシ若シ審院ノ指令アルキハ他ノ時此時被告人若シ答辨ヲナ限ニ於テ之ヲナスサ、ルキハ審院即テ其裁判ヲ宣令スルヲ得ヘシ

第一千十二條

其告罪狀若シ第一千四條ニ

記載セル疵瑕ニ觸ル、キハ被告人只ダ過訟

法ヲ以テ其批摘ヲ利用スルコトヲ要ス但シ其
審院ノ管理能ク其告罪状ノ件案ニ及ハサル
ヲ批摘シ及ヒ其告罪状ニ陳述セル事實能ク
罪辜タルコトヲ成サ、ルヲ批摘スル者ハ一タ
ヒ無罪ト答辯シテ登時ノ裁判ヲ停止スルノ
後ト雖モ之ヲ行フコトヲ得ヘシ
即ケ推審時ニ
之ヲ行フヲ言
フナ
リ

第四章 答辯

第一千十六條 告罪状ニ答辯スル者ハ左ノ

三種ニ分ツ

第一 有罪ト答辯ス

第二 無罪ト答辯ス

第三 其同一犯已ニ決罪若クハ放還ノ裁

判ヲ受ケタルコトヲ答辯ス○此時ニハ無罪

ノ答辯ヲ用ヒ若クハ之ヲ用ヒサルモ妨ケ

ナシトス

第一千十七條 各答辯ハ之ヲ口述要子左ノ

書式ヲ以テ之ヲ備忘録ニ登記スルコトヲ要ス

第一 被告人若シ有罪ト答辯シタルキハ

其登記應サニ云フヘシ被告人此告罪状ニ
負頼セラレタル事犯ヲ以テ己レノ罪ト答
辨スト

第二 被告人若シ無罪ト答辨シタルキハ
其登記應サニ云フヘシ被告人此告罪状ニ
負頼セラレタル事犯ヲ以テ己レノ罪ニア
ラスト答辨スト

第三 被告人若シ既往ノ決罪若クハ放還
ヲ以テ答辨トスルキハ其登時應サニ云フ
ヘシ被告人己ニ此告罪状ニ負頼セラレタ

ル事犯ノ為メニ某年某月某日某處茲ニ其地名ヲ

録ノ某審院茲ニ其審院ノ名ヲ裁判ヲ以テ決罪

セラレ其放還セラレタル者タルヲ答辨

スト

第一千十八條 有罪ノ答辨ハ只タ被告者親

カラ之ヲ公聽ノ審院ニ行フヲ得ヘシ但シ

滙理ヲ負頼スル告罪状ニ於テハ其代言者之

ヲ行フヲ得ルナリ審院己ニ此答辨ヲ受テ

未タ裁判ヲ行ハサルニ先ツテハ何ノ時限ヲ

論セス被告者ヲシテ其答辨ヲ消却シ換ルニ

無罪ノ答辨ヲ以テスルコトヲ得セシムヘシ

第一千十九條 無罪ノ答辨ハ告罪狀中ノ各
的要辨論ヲ待審ニ付スル者トス

第一千二十條 凡ソ無罪ト答辨シタル者ハ
只々第一千十六條ノ第三項ニ揭示セル事實
ヲ除クノ外總テ其答辨ヲ確立スヘキ各事件
ヲ援テ證據トスルコトヲ得ヘシ

第一千二十一條 既往ノ放還若シ其告罪狀
ノ能ク其所証ニ合ハサルヨリ生シ若クハ其
告罪狀ノ失式失要ヲ批摘シテ之ヲ唔用シ未

タ放還ノ裁判ヲ為サス若クハ甚馬ノ事犯ノ
為メニ其被告人ヲ留ムルヨリ生スル者ニ係
ルキハ之ヲ同一犯ノ放還ト言フトヲ得ス

第一千二十二條 被告人若シ應得のニ放還
セラレタルキハ縱ヒ其推審ヲ經タル告罪狀
ノ書式要件ニ何様ノ玷缺アルモ同一犯ノ放
還ヲ得タリト言フコトヲ妨ケス

第一千二十三條 被告人若シ已ニ決罪放還
セラレタルキハ其決罪放還只々能ク爾後同
一犯ノ告罪狀ヲ遏住スルノミナラス又能ク

之ヲ試犯シタル告罪状及ヒ其本罪中ニ含有
セサルヘカラサル一個ノ支罪ノ告状ヲ過住
スルニ足ル可シ 試犯及ヒ含有ノ支犯ハ已ニ
之ヲ其本事犯ノ決罪中ニ算
入セリト看
做セハナリ

第一千二十四條

被告人若シ其告罪状ニ措

答スル 過訟若クハ答辨ヲ
用ルヲ言フナリ 一ヲ不肯スルキハ

審院令シテ無罪ノ答辨ヲ登記セシム

第五章

郡審院ヨリ區審院若クハ素

港刑法審院ニ告罪状ヲ遞付スル事

第一千二十八條

郡審院ニ決是セル告罪状

若シ反罪隱匿及罪謀殺非謀殺ニ係ルキハ其
主典應サニ之ヲ該郡ノ區審院ニ遞付シテ推
審セシムヘシ但シ其告罪状若シ區審官ヲ奉
職セル人氏ヲ告ルニ係ル者ハ此限ニ在ラス

第一千二十九條

凡ソ其決是セラレタル告

罪状若シ郡審官ヲ告ル者ニ係ルキハ亦應サ
ニ之ヲ該審院ニ遞付シテ推審セシムヘシ

第一千三十條

凡ソ素港府郡ノ郡審院ニ決

是セラレタル告罪状ハ其主典應サニ之ヲ素

港府郡ノ刑法郡審院ニ逋付スヘシ但シ其告罪状若シ素港府郡ノ刑法郡審官ヲ告ル者ハ此限ニ在ラス是レ區審院ニ逋付シテ推審セシムヘキ者トス

第六章

未タ推審セサル前ニ其訟獄ヲ轉移スル事

第一千三十三條

告罪状ヲ以テ究述セラレタル被告者若シ該郡ニハ明白公平ノ推審ヲ得ニ難レキヲ以テ其訟獄ヲ轉移スルヲ請求スルハ其審院乃チ之ヲ准ルスヲ得ヘ

第一千三十四條

此請求ヲ行フニハ應サニ之ヲ書ニ筆シテ公聽ノ審院ニ呈シ誓書ヲ以テ之ヲ表實シ且ツ請求ノ前一日迄ニ其寫書ヲ區代言官ニ逋達スヘシ然ルニ其誓書若シ能ク被告人ノ容易ニ出頭スルヲ得ヘカラサル郡衆ノ忿怒甚盛ニシテ被告人ノ身ヲ途上ニ累危スヘキ恐レアルノ故ナリヲ示スニ足り且ツ他ノ証据アツテ其示ス所ヲ保助スルハ其代言者能ク代ツテ此請求ヲナシ假令ヒ其告罪状ハ大罪ヲ告ル者ニ係リ

其被告人ハ未タ拿捕セラレズ若クハ未タ保
憑ヲ納レズ若クハ未タ初問答辨過訟ヲ經ル
ニ至ラサルモ被告者ノ出頭ナクシテ其請求
ヲ推審決定セラル、トヲ得ヘシ

第一千三十五條 審院已ニ被告者ノ陳說ヲ
聽テ其陳說ニ滿意スルキハ應サニ這樣ノ疵
瑕ナキ的當ノ郡審院ニ其訟獄ヲ轉移スルト
ヲ令スヘシ

第一千三十六條 轉移ノ命令ハ必ス之ヲ備
忘録ニ登記シ主典應サニ直チニ其訟獄ニ關

スル帳簿辨論行為ノ有印寫書ヲ作り被告者
及ヒ証人ノ出頭約書トヲ併セラ之ヲ其應審
ノ審院ニ遞付スヘシ

第一千三十七條 此時被告人若シ獄舎ニ在
ルキハ審院應サニ其轉獄ヲ令スヘシ是ニ於
テ該郡ノ成法官即チ被告人ヲ其管轄ノ獄ヨ
リ出シテ之ヲ應審ノ郡ノ成法官ニ付スルト
ヲ要ス

第一千三十八條 應審ノ審院是ニ於テ其審
判ニ從事スルト正サニ該院ニ起始セル訟獄

ニ於ルカ如クナル應シ此時若シ最初ノ辨論
若クハ其他ノ文書ヲ要スルキハ最初ノ審院
當サニ區代言官若クハ被告者ノ請求ニ應シ
テ即チ主典ニ令シテ之ヲ應審ノ審院ニ逋付
セシムヘシ但シ其有憑寫書ハ之ヲ最初ノ審
院ニ留存ス

第七章 推審法

第一千四十一條 事實ノ結果ハ左ノ各件ヨ
リ生ス

第一 無罪ノ答辨ヨリ生ス

第二 已ニ同一犯ノ決罪若クハ放還ヲ受
ケタルヲ答辨スルヨリ生ス

第一千四十二條 事實ノ結果ハ陪審ヲ以テ
之ヲ推審スルヲ要ス

第一千四十三條 其告罪状若シ大罪ヲ告ル
者ニ係ルキハ被告人必ス親カラ參庭セサル
ヘカラス然レモ若シ小罪ナルキハ親カラ出
頭セサルモ亦不可ナシ但シ其相貌ヲ徵見ス
ル為メニ其出頭ヲ要スルキハ審院乃チ區代

言官ノ請求ニ應シテ令狀若クハ保狀ヲ以テ
其出頭ヲ要スルコトヲ得ヘシ

第八章 小陪審ノ編制及ヒ諸結果ノ

案表

第一千四十六條 刑法ノ小陪審ヲ編制スル

者ハ私訟法第八則第四章ニ揭示セル私訟小
陪審ノ編制法ニ同シ

第一千四十七條 主典此時應サニ其審院ニ
進呈セル一切ノ未定訟ヲ列記シテ案表ヲ作

ルヘシ其法ハ其告罪狀ヲ呈納セル日子ヲ以
テ其先後ヲ分チ其大罪タリ若クハ小罪タル
ヲ論セス或ハ其被告者ノ現ニ獄舎ニ在リ若
クハ保憑ヲ納レタルトヲ分タス皆對面ニ各
公訟ノ標目ヲ題スルナリ

第一千四十八條 此案表ニ記載セル諸結果

ハ皆應サニ左ノ順序ヲ以テ之ヲ推審スヘシ
但シ原被ノ一方若シ誓書ヲ以テ止ムヘカラ
サル事由アルヲ示シ且ツ其前二日迄ニ其誓
書ノ副本ヲ對訟者ニ送付シ審院ニ順序外ノ

推審ヲ受ケンコヲ請求シテ其允許ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第一 大罪ノ告状ニシテ其被告者現ニ獄舎ニ在ル者

第二 小罪ノ告状ニシテ其被告者現ニ獄舎ニ在ル者

第三 大罪ノ告状ニシテ其被告者現ニ保憑ヲ納レタル者

第四 小罪ノ告状ニシテ其被告者現ニ保憑ヲ納レタル者

第一千四十九條 被告人ハ措答ノ後推審ニ預備スルカ為メニ二日以上ノ時間ヲ有スルノ權アリ

第九章 推審ノ延遲

第一千五十二條 凡ソ告罪状ヲ以テ推審ヲ行フニ臨ミ若クハ未タ臨ムニ及ハサル時ニ原被ノ一方若シ誓書ヲ以テ充分ノ事由ヲ示スルハ審院乃チ其推審ヲ延遲シテ該開局若クハ次開局ノ某日ニ至ラシムルコトヲ得ヘシ

第七則 起審後裁判前ノ行為

第一章 陪審ヲ不准スル事

第一千五十五條 不准トハ小陪審ニ關スル

批摘ニシテ其類ニツアリ

第一 全負ノ小陪審ニ關スル者

第二 各員ノ小陪審ニ關スル者

第一千五十六條 一推審ヲ受ル衆被告者ハ

其不准ヲ各自ニスルヲ得ス必ス應サニシ

ヲ相共ニスヘシ

第一千五十七條 全員ノ小陪審トハ成法官

ノ徵喚セル陪審者ノ一連ニシテ即チ某ノ審

院若クハ某公訟ノ推審ノ為メニ出頭スル者

ヲ言フナリ

第一千五十八條 全負ノ不准トハ此徵喚セ

ラレタル一連ノ小陪審者ニ關スル批摘ニシ

テ原被皆之ヲ行フヲ得ヘシ

第一千五十九條 全負ノ不准ハ只々小陪審

ヲ抽出報復スルノ諸規則現ニ私訟法ニ揭示

セル者ニ背戾スルキ若クハ成法官故意ニ怠情シテ已ニ抽出セル陪審者ノ一名以上ヲ徴喚セサルキ之ヲ行フコトヲ得ヘシ

第一千六十條

全負ノ不准ハ當サニ其陪審

ノ未タ誓ハサルニ迄ンテ之ヲ行フヘシ但シ之ヲ書ニ筆シ若クハ略筆者ヲシテ之ヲ寫音セシメ平易分明ニ其不准ノ根據タル事實ヲ陳述スルコトヲ要ス

第一千六十一條

其ノ事實ヲ根據トシテ不

准ヲ行フニ對手若シ其事實未タ根據トスル

ニ充分ナラスト語肯スルキハ乃チ其不准ヲ

辯駁スルコトヲ得ヘシ此辯駁ハ必シモ之ヲ書

ニ筆スルコトヲ要セス唯タ審院若クハ略筆者

ノ備忘録ニ登記スレハ可ナリ審院於是其不

准書ニ陳述セル事實ヲ正真ナリト假想シテ

直チニ其充分ナルト否トノ推審ニ及フ應シ

第一千六十二條

此時審院若シ其不准ヲ充

分ナリト見ルコトアルモ自ラ情理ノ止ムヘカ

ラサル者アルキハ其辯駁者ヲ許シテ其辯駁

書ヲ取回シ仍ホ其書ニ陳述セル事實ヲ語肯

スルヲ得セシム辨駁ヲ許スルニ於テモ亦
々不准者ニ其不准書ヲ改正スルヲ許スヘ
シ

第一千六十三條

其不准ヲ唔肖スル者ハ口
述ヲ以テ之ヲ行フヲ得ヘシ然レモ必ス之
ヲ審院若クハ畧筆者ノ備忘録ニ登記シテ而
後其事實ノ審推ニ及フ應シ此審推ニ其不
准ノ根據タル事實ヲ立憑弁倒スル為ノニ其
訴苦セラレタル官吏及ヒ其它ノ人氏ヲ詰究
スルヲアルヘシ

第一千六十四條

陪審中ニ若シ抽出セラレ
サル人氏アルキハ其人氏ヲ不准スヘキハ
固ヨリナレモ其陪審者ヲ徵喚セル官吏ノ偏
頗ヲ口實トシテ全負ヲ不准スルモ亦可ナ
リ此時ニハ其不准ヲ行ヒ及ヒ之ヲ決定スル
ト皆當サニ一陪審者ノ不准スル時ハ式法ニ
因ルヘシ

第一千六十五條

不准ノ弁駁若クハ事實ノ
唔肖ニ於テ審院若シ其不准ヲ許ルスキハ當
サニ其陪審ヲ放遣シテ其告罪一切ノ推審ニ

關係セシメサルヘシ然レモ審院若シ其不准
ヲ許サ、ルモハ當サニ其陪審ニ令シテ編製
ニ就カシムヘシ

第一千六十六條 陪審者未タ其席ニ出頭セ
サルニ先ツテ審院若クハ審院ノ指令ヲ受ケ
タル者應サニ預シメ被告人ニ知告シテ云フ
ヘシ汝若シ各員ノ陪審者ニ就テ不准スル所
アラハ其出頭シテ未タ誓ヲ行ハサル前ニ其
不准ヲ行フコトヲ要スト

第一千六十七條 各員ノ陪審者ニ不准スル

者ハ左ノ二種ヲ以テス

第一 硬要的

第二 有故的

第一千六十八條 凡ソ不准ハ必ス其陪審者
ノ出頭シテ未タ審問ノ誓ヲ為サ、ル前ニ之
ヲ行フコトヲ要スルト雖モ有故的ノ不准ニ至
テハ已ニ誓ヲ為シタル後ト雖モ一連ノ陪審
未タ完備セサルニ迄フモハ審院准シテ之ヲ
行ハシムルコトアリ

第一千六十九條 硬要的ノ不准ハ原被告之

ヲ行ヒ且ツ口述ヲ以テスルヲ得ヘシ是レ其原因ヲ述ヘスレテ各負ノ陪審者ヲ唔肯シ
審院モ亦タ其唔肯セラレタル陪審者ヲ除出
セサルヲ得サル者ナリ

第一千七十條

其負頼セラレタル犯罪若シ

死刑若クハ終身拘禁ニ處スヘキ者ニ係ルハ
ハ被告人ハ十人州ハ五人ノ陪審者ヲ硬要的
ニ不准スルヲ得ルノ權アリ然レモ其他ノ
各犯罪ヲ推審スルニハ被告人ニハ五人州ニ
ハ三人ヲ准ルス

第一千七十一條

有故的ノ不准モ亦タ原被

替之ヲ行フヲ得ヘシ是レ亦タ各負ノ陪審
者ヲ唔肯スル者ニシテ左ノ二種アリ

第一 普通的○其陪審者各件案ヲ推審ス

ルニ整合セサル者

第二 特別的○其陪審者該件案ヲ推審ス
ルニ整合セサル者

第一千七十二條

普通有故的ノ不准ハ左ノ

三故ニ因ル

第一 其陪審者曾テ大犯ノ決罪ノ受ケタ

ル故

第二 其陪審者現ニ私訟法ニ揭示セル必
要ノ品格ヲ欠キタル故

第三 其陪審者現ニ心疾アリ若クハ其心
思器官ニ不具ナル所アツテ陪審ノ職務ヲ
成行スルニ適セサル故

第一千七十三條 特別有故的ノ不准ハ左ノ
二故ニ因ル

第一 包藏的ノ偏頗○某ノ事實アルカ為
メニ法ニ於テ其陪審者ヲ所謂ル包藏的ノ

偏頗 此六字ハ該典
ニ本出スル者アリト判スヘキ者ヲ言
フナリ

第二 顯著的ノ偏頗○其陪審者預シメ其
件案ニ心決スル所アルヲ以テ恐クハ至公
平ノ判決ヲ為スヲ能ハス此典ニ所謂ル顯
著的ノ偏頗ヲ抱ケリト看認スヘキ 是レ其
陪審者

ヲ推審スル者公心ニ此
ノ如ク看認スルヲ言フ者ヲ言フナリ但シ
其陪審ノ意見元ト途說證若クハ正実ト安
意スヘキ知告ヨリ起レル設若的ノ意見ニ
シテ毫モ害惡ノ意ヲ挾マサル片ハ陪審ニ

整合セサル者トナサス故ニ之ヲ顯著若クハ包藏的ノ偏頗トシテ其人ヲ不准スルヲ得ス

第一千七十四條

包藏的ノ偏頗ノ為メニ不

准ヲ行フ者ハ左ノ各原因ヲ除クノ外他ノ原因ヲ用ルヲ得ス

第一 其陪審者若シ其犯罪ニ妨害セラレタル人氏若クハ其究述ノ起原タル訴告ヲナセル人氏若クハ被告人ニ四等以内ノ血属若クハ外戚タル者

第二 其陪審者若シ其被告人若クハ其犯罪ニ妨害セラレタル人氏若クハ其究述ノ起原タル訴告ヲナセル人氏ト保人被保人若クハ代言者托告者若クハ主僕若クハ貸家主借家人ノ交誼アリ若クハ其家属ノ一人タリ若クハ其勞金ヲ受テ其事務ヲ理スル者タル者

第三 其陪審者若シ私訟ニ於テ其被告人ノ對手タリ若クハ嘗テ一個ノ公訟ニ於テ其被告人ヲ訴告シ若クハ被告人ノ為メニ

頁頼セラレタル者ニ係ル片

第四 其陪審者嘗テ大陪審トナツテ其告罪状ヲ決是シ若クハ檢屍官吏ノ陪審トナツテ其告罪状ノ被殺人ヲ檢屍シタル者ニ係ル片

第五 其陪審者嘗テ小陪審トナツテ其告罪状ニ負頼セル犯罪ノ為メニ他ノ人氏ヲ推審シタル者ニ係ル片

第六 其陪審者嘗テ其告罪状ヲ推審スル為メニ陪審ノ一員トナツテ誓ヲ為シタリ

ト雖モ其判決ヲ排棄セラレ若クハ未ダ判決ニ至ラスシテ放解セラレタル者ニ係ル片

第七 其陪審者嘗テ其負頼セラレタル犯事ニ關スル私訟ニ於テ陪審トナツテ之ヲ推審シタル者ニ係ル片

第八 其陪審者若シ其被告人ヲ有罪若クハ無罪ニ固信シテ其意見毫モ移動スヘカラサル者ニ係ル片○不容移ノ意見トハ其意見定着頑固ニシテ証据ノ為メニ變易ス

ヘカラスアル者ヲ言フナリ

第九 其負頼セラレタル犯罪若シ死刑ニ
處スヘキ者ニ係ルキ其陪審者若シ本心ノ
慈悲ヲ主張スル人氏ニシテ有罪ノ決是ヲ
為スト能ハサルニ疑シキ片〇此時ニハ其
人ヲ准ルシ若クハ之ヲ強テ陪審タラシム
ルヲ得サルナリ

第一千七十五條

陪審タルヲ除免セラ
ル者ハ其人ノ特權ナリ不准ノ原因ニアラス
第一千七十六條 包藏的ノ偏頗ノ為メニ不

准ヲ行フ者ハ必ス第一千七十四條ニ列記セ
ル原因中ノ一項以上ヲ陳述スヘシ顯着的ノ
偏頗ノ為メニ不准ヲ行フ者ハ必ス第一千七
十二條ノ第二項ニ記載セル原因ヲ陳述スヘ
シ二者皆口述ヲ以テ行フヲ得ヘシト雖モ
必ス之ヲ審院若クハ略筆者ノ備忘録ニ記載
セサルヘカラス

第一千七十七條

各負ノ陪審者ヲ不准スル
片對手ヨリ之ヲ弁駁スルヲ得ルヲ猶ホ全
負ノ不准ヲ弁駁スル者ノ如シ此時ニハ應サ

ニ第一千六十一條ニ揭示セル行為ニ從事ス
ヘシト雖モ審院若シ其并駁ヲ准ルス片ハ直
チニ其陪審者ヲ除出セサルヲ得ス又不准
ノ根据タル事實ヲ陳述スル片モ對手ヨリ口
述ヲ以テ之ヲ唔肯スルヲ得ヘシ

第一千七十八條 事實ノ唔肯アルニ會ヘル

左ノ方法ヲ以テ其不准ヲ推審スルヲ要ス

第一 其不准若シ包藏的ノ偏頗ニ係ル者
ハ審院之ヲ推審ス

第二 其不准若シ顯著的ノ偏頗ニ係ル者

ハ推審者之ヲ推審ス

第一千七十九條 推審者トハ陪審名簿中ニ

在ラスシテ原被ノ各方ニ關係ナキ人氏三名

ニ命シテ之ヲ設ル者ナリ凡ソ顯著的ノ偏頗

ニ因テ不准ヲ行フ者ハ一切ニ此三推審者ヲ

以テ之ヲ推審シ決テ其多數ニ取ルナリ

第一千八十條 推審者ハ其不准セラレタル

諸人果シテ其不准シタル人氏ニ偏頗ナルヤ

否ヤヲ查問シ証据ニ從テ信實ニ之ヲ裁決ス

ルノ職掌ニシテ誓言ヲ以テ之ニ從事スルヲ

要ス

第一千八十一條 各陪審者ノ不准ヲ推審スルニハ其不准セラレタル陪審者ヲ以テ一証人トシテ其不准ヲ立憑弁倒セシムルヲ得ヘシ此時ニハ其陪審者應サニ其查問ニ關スル各疑問ニ措答スヘシ

第一千八十二條 其他双方ノ証人モ亦之ヲ詰究スルヲ得ヘシ此時其証据ヲ准許除出スルノ規則ハ凡ソ一切ノ結果ヲ推審スルキノ取證法ノ如シ

第一千八十三條 包藏偏頗ノ不准ヲ推審スルニハ審院應サニ法律ト事實トヲ併決シテ其不准ヲ許否シ命シテ其許否ヲ備忘録ニ登記セシムヘシ

第一千八十四條 顯著偏頗ノ不准ヲ推審シテ其証据ヲ聽了シタルキハ審院應サニ其推審者ニ左ノ意ヲ吩咐スヘシ

推審者若シ其聽了セル証据ニ据テ其陪審者ノ偏頗アルヘキヲ保證シ得タリト意ハ、其不准ヲ正實ト決スルヲ固リ其職掌

タリ然レモ若シ之ニ及シテ其陪審者ノ決
シテ偏頗アラサルコトヲ証見セハ應サニ其
不准ヲ不正實ト決スヘシ又其陪審者ノ意
見素ト途説証若クハ正實ト妄意スヘキ知
告ヨリ起レル設若的ノ者ニシテ毫モ害惡
ノ意ヲ挾マサル者ハ偏頗アルカ如シト雖
モ決シテ其人ヲ不整合トスルニ足ラス
右ノ外他ノ吩咐ヲ與フルコトヲ准ルサス

第一千八十五條

推審者はニ於テ必ス應サ
ニ其不准ヲ正實若クハ不正實ト決スヘシ此

決ハ終結ノ裁判トス故ニ推審者若シ其不准
ヲ正實ナリト決スルモハ其陪審者ハ除出セ
ラレサルコトヲ得ス

第一千八十六條

凡ソ各陪審者ヲ不准スル
者ハ硬要的ノ不准ヲ除クノ外被告人先ツ之
ヲ行フテ然シテ後人民部ニ及フ故ニ被告人
ハ應サニ人民部ノ未ダ不准ヲ始メサルニ先
ツテ悉ク其不准ヲ行了スヘシ

第一千八十七條

凡ソ有故的ノ不准ヲ行フ
者ハ原被ノ各方皆一時ニ之ヲ行了スルコトヲ

要セス只ク應サニ左ノ順序ヲ以テ代ハルミ
之ヲ行フヘシ但シ同一階級中ニ屬スル諸原
因ハ都テ之ヲ一不准中ニ陳了スヘシ

第一 全貞ノ陪審ヲ不准スル者

第二 普通ノ不整合ニ因テ各陪審者ヲ不
准スル者

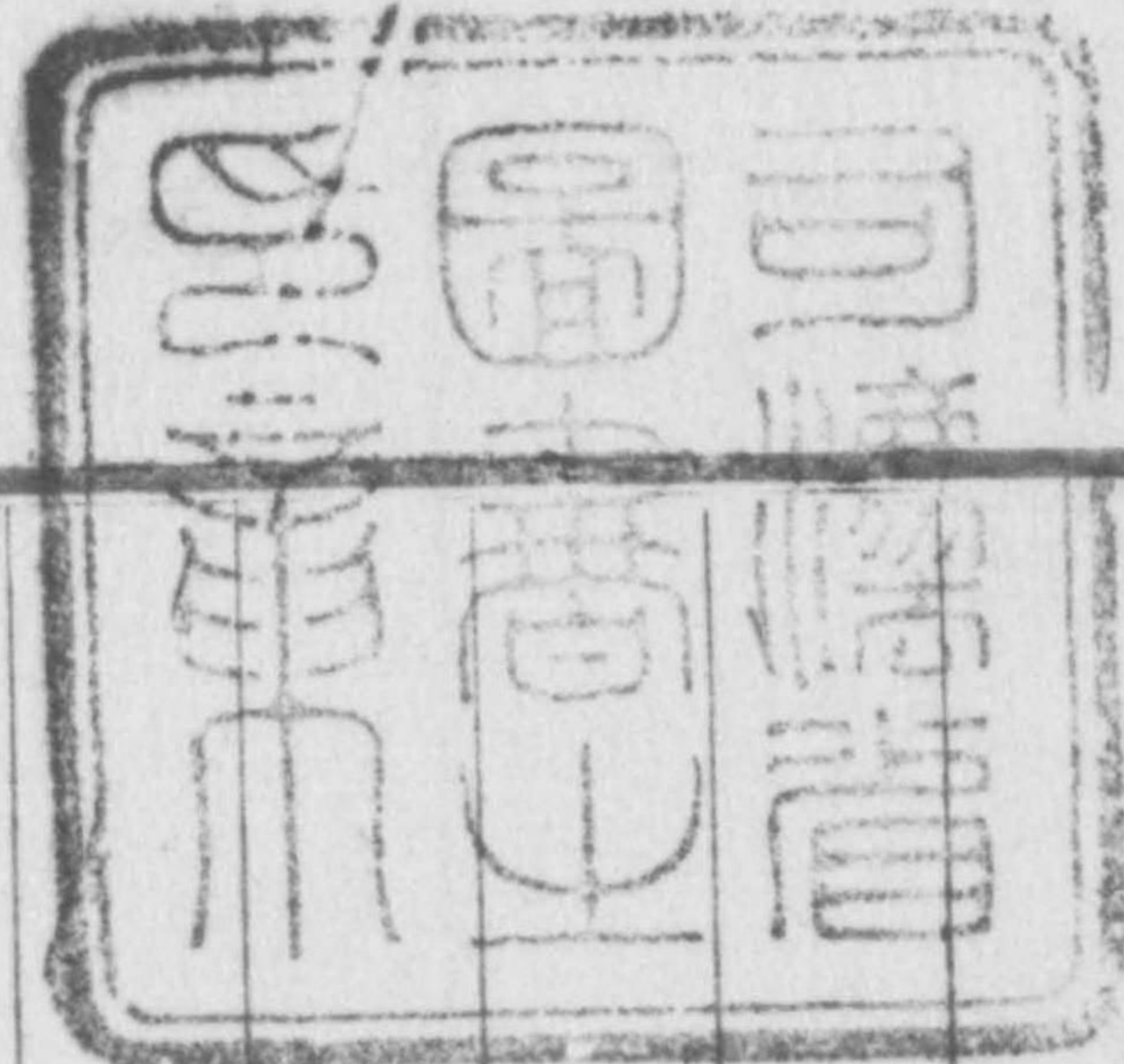
第三 包藏の偏頗ニ因テ各陪審者ヲ不
准スル者

第四 顯著的ノ偏頗ニ因テ各陪審者ヲ不
准スル者

第一千八十八條

原被双方ノ不准若シ許サ
レサル者アルキハ第一ニ人民部次ニ被告者
硬要的ノ不准ヲ行フテ其數ヲ盡了スルニ至ル
トヲ得ヘシ

昭和四年
〇第 2945 號
11月11日受入



三法書

